



【Ⅰ】

□ イエス わが喜び

(J. Crüger / A. Dörffel / J. S. Bach)

□ フーガ 八短調 BWV 537 (J. S. Bach)

□ アフリカ人のシャコンヌ (J-B. Lully)

【Ⅱ】

□ 『音楽のいたずら』より

「すみれの花」「美しき手の魅惑」(C. Monteverdi)

□ 神に向かって喜び歌え (A. Scarlatti)

□ 『カプリオール組曲』より

「バスダンス」「ピエゾンレール」「マタシャン」

(P. Warlock 作曲 / S. Taylor 編曲)

【Ⅲ】

□ ニューヨークの印象 (A. Rosenheck)

□ 『英國戀物語エマ 第一幕より』

Silhouette of a Breeze (梁邦彦作曲 / 金子健治編曲)

□ リベルタンゴ (A. Piazzolla 作曲 / 金子健治編曲)

曲目解説

【Ⅰ】

イエス わが喜び (J. Crüger / A. Dörffel / J. S. Bach)

スラブ系ドイツ人のクリューガ(1598-1662)が作曲した賛美歌で、大バッハ(1685-1750)がそれをもとに作ったやや長い合唱曲(BWV227)でも有名。

ここでは、ドルフル(1821-1905)による合唱用の編曲版と、それに続けて上記のバッハの合唱曲から第4連の「去れ、すべての宝物」に対する変奏の部分をリコーダーで演奏する。

フーガ 八短調 BWV 537 (J. S. Bach 作曲 / R. Tokunaga 編曲)

大バッハによるオルガンのためのフーガ曲のひとつで、「ファンタジーアとフーガ」と題された作品の後半部。冒頭の特徴的なメロディーが各声部に引き継がれながら発展してゆく。

オルガンでは両手と足を使ってひとりで演奏するが、ここでは4つの声部ごとに音域の異なるリコーダーで演奏。重厚感を出すためにここではグレートバス・リコーダーとコントラバス・リコーダーも使用する。

アフリカ人のシャコンヌ (J-B. Lully)

作曲者のリュリ(1632-1687)はイタリア出身だが、フランスの絶対君主制を確立した「太陽王」ルイ14世に音楽家、ダンサーとして仕え、寵愛を受けた。バレエ音楽やフランス式オペラを数多く作曲し、その後のフランス音楽の基礎を作った。指揮のために使っていた棒で自分の足先について壊疽になったが、足の切断手術を拒否して死去したと言う。

シャコンヌとは3拍子の舞曲の名で、この曲は、初期のフランス式オペラで古代ギリシャを舞台としたファンタジー性の強い「カドミュスとエルミオヌ」のなかで踊られるもの。当時のバロック期フランスの「イネガル」という、今ふうに言えばスイングするような演奏法が特徴的。

【Ⅱ】

『音楽のいたずら』より「すみれの花」「美しき手の魅惑」(C. Monteverdi)

モンテベルディ(1567-1643)はルネサンス音楽からバロック音楽への橋渡しをした大作作曲家で、イタリア北部で活動した。今でも上演される最古のオペラを含め声楽作品が多いが、それまでの「音が主で歌詞が従」という関係を逆転させて、「歌詞が主で音が従」という考えをおすすめした。

『音楽のいたずら』は器楽伴奏つきの3声のイタリア語の歌曲集で、「すみれの花」の歌詞は、若い女性をすみれにたとえて「あなたの今の美しさは、すみれの花と同じく長くは続きませんよ、そして「美しき手の魅惑」は「美しいあなたの手が私を惹きつけ、思い出すだけでどんな辛苦にも耐えられるし、あなたの手の白さの前では海の波の花もアルプスの雪も影が薄い」といった内容。

神に向かって喜び歌え (A. Scarlatti)

アレッサンドロ・スカラッティ(1660-1725)はバロック中後期のナポリでオペラなど声楽曲を主に作曲した。チェンバロ作品で有名なドメーニコの父。この作品はルネサンス風の4声のラテン語の合唱曲だが、これをリコーダーで演奏する。

歌詞は旧約聖書の詩篇81の語句をもとに、最初は「私たちの力の神に向かって喜び歌い」、中間部で「アレルヤ」、そのあと3拍子の部分で「ヤコブの神に向かって喜びの叫びをあげよ」という語句を声部間で追いかけるように何度も繰り返したあと、もう一度中間部に戻って終わる。

『カプリオール組曲』より「バスダンス」「ピエゾンレール」「マタシャン」(P. Warlock 作曲 / S. Taylor 編曲)

ウォーロック(「魔法使い」の意のペンネーム)はイギリスの作曲家(1894-1930)で、代表作と目されるこの『カプリオール組曲』は全6曲からなる器楽作品。16世紀フランスの対話体の舞踏解説書「オルケゾグラフィ」を意識した作品で、カプリオールもそこでの聞き役の若者の名前。

今回演奏する「バスダンス」はゆったりした舞曲の名。「ピエゾンレール」は上記書籍では軽快な舞曲ガイヤルドで使う跳躍を指すが、この曲自体はゆったり。「マタシャン」は同書では剣を持ってペアで踊る舞。

【Ⅲ】

ニューヨークの印象 (A. Rosenheck)

作曲者ロウズンヘック(1938-2018)はニューヨーク出身で、若いころはプロの音楽家をめざしたものの、大学卒業後は音響関係の技術者になった。30歳代でスイスに移住したあとに作曲を本格的にはじめた。

この組曲はリコーダー用の作品で、ジャズブルース風の「セントラルパーク」、変拍子で写実的な「地下鉄」、ゆったりとした「マンハタンの月」、そして威勢のよい「ブロードウェイ・初演」の4曲からなる。

『英國戀物語エマ 第一幕より』Silhouette of a Breeze (梁邦彦作曲 / 金子健治編曲)

19世紀末のイギリスを舞台にした日本の森薫の漫画作品「エマ」のテレビアニメ版(2005年)のオープニングテーマ曲。リコーダーアンサンブルで近年よく取り上げられる曲。

リベルタンゴ (A. Piazzolla 作曲 / 金子健治編曲)

踊りのための伝統的なタンゴを離れ、クラシック音楽やジャズの要素も取り入れ、電気楽器も加え、もっぱら音楽としての「新タンゴ」を創始したピアソラ(1921-1992)の代表作のひとつ。日本ではウイスキーのテレビCMとしても使われた。曲名はスペイン語のlibertad「自由」とtango「タンゴ」を組み合わせたもの。今回使用する編曲は作曲者自身による最初の録音(1974)の演奏に近い。1小節を8分音符で3+3+2と分けるピアソラ・タンゴの特徴的なリズムがベースラインで強調される。